

4 10年のあゆみ

昭和45年度

(1) 公害センターの設置

昭和45年10月、衛生研究所公害研究部が発展的に廃止され、新たに、公害センターが、県民生活部（公害課）所管の出先機関として設置された。

当初は、所長（県民生活部長兼務）以下13名で発足し、旧衛生研究所構内（大宮市吉敷町）の仮庁舎において業務を開始した。

(2) 深刻化する公害に対処

激増、深刻化する大気汚染、水質汚濁、悪臭等に対処するため、問題発生工場事業場に対する各種調査、公共用水域の水質検査、自動車排出ガスの分析検査等を、精力的に実施した。

(3) 調査研究課題

① 自動車排出ガス中の鉛の測定法に関する研究

交通量の増加とともに、自動車排出ガスによる大気汚染が問題視されてきたので、排出ガス中の鉛の測定法について、次の方法を検討した。

㉞ 沿道大気をハイボリウム・エアサンプラーで吸引し、過塩素酸等で分解した後、原子吸光光度計により鉛を測定する。

㉟ 吸引管に硝酸を吸収液として注入し、沿道大気を吸引した後、MIBKで抽出し、原子吸光光度計により鉛を測定する。

㊱ 沿道大気を、メンブランフィルター→硝酸吸収液→ I_2 + KI 吸収液の順で吸引し、それぞれの段階で鉛を測定して、その総量を算出する。

以上の三種類の方法を比較検討した結果、㊱の方法が、鉛を最も効率良く捕集できることが明らかとなった。（第11回大気汚染研究全国協議会において発表）

昭和46年度

(1) 新庁舎の建設

昭和46年6月、激増する公害の分析検査等に対処するため、浦和市上大久保地内に、新庁舎（公害センター衛生研究所合同庁舎）の建設が突貫工事で進められ、翌年3月完成の運びとなった。（昭和47年5月新庁舎への移転完了）

所在地 浦和市上大久保639-1

敷地 13,200 m^2

建物 鉄筋コンクリート造り4階建 本館ほか別棟 床面積 延5,386.3 m^2